

着色良好なウンシュウミカン「上村早生(かみむらわせ)」 の施設栽培における特性

農業技術センター果樹試験場

〔背景・ねらい〕

ウンシュウミカン「上村早生」は土佐香美農業協同組合果樹部会の探索事業において「興津3号」の枝変わりとして見つかри、2013年4月18日に品種登録された本県オリジナル品種である。「興津3号」や「興津早生」に比べ、着色の進行が早く、果皮の橙色が濃いという特性を持っており、高温な夏季に収穫を迎える施設栽培で問題となる着色遅延や浮皮等が発生しにくい可能性がある。

そこで、施設において夏季に収穫を迎える作型で「上村早生」を栽培し、その特性を明らかにする。

なお、「上村早生」の施設栽培の取り組み事例はまだなく、高知県内での施設ウンシュウミカンの品種構成では「興津早生」が最も多い。

〔新技術の内容・特徴〕

1. 「上村早生」は施設栽培でも着色良好で（図1、2）、既存品種の「興津早生」に比べ2～3週間程度早く収穫を始められ、収穫の終わりも早くなる（図4）。
2. 「上村早生」の糖度計示度は同一収穫日で比較すると同程度、クエン酸含量は「興津早生」に比べやや低く（図3）、果形は「興津早生」に比べやや扁平である（表1）。その他の果実品質は同様である（表1）。着色良好なため浮皮が発生する前に収穫可能である。
3. 収量は同程度である（図5）。
4. 発芽、開花期は同時期である（データ省略）。

〔留意点〕

1. 12月16日加温開始、設定温度18～22℃、夏母枝タイプ7月収穫作型で比較した結果である。
2. 2006年12月に「上村早生」と「興津早生」の穂木を採取し、「上野早生」6年生の主幹部に接木し、仕立てた樹を用いて試験した結果である。
3. 「上村早生」の育成者権者は土佐香美農業協同組合と高知県である。苗木はCTV弱毒ウイルス（M16A）接種個体から土佐香美農業協同組合が作成しており、購入は土佐香美農業協同組合に申し込む。

〔評 価〕

1. 「上村早生」は施設栽培でも着色良好な特性が確かめられた。
2. 果皮の着色が良好で橙色が濃いことは、消費者の要望にも合致し、産地間競争に打ち勝つ有望な品種となりうる。

[具体的データ]

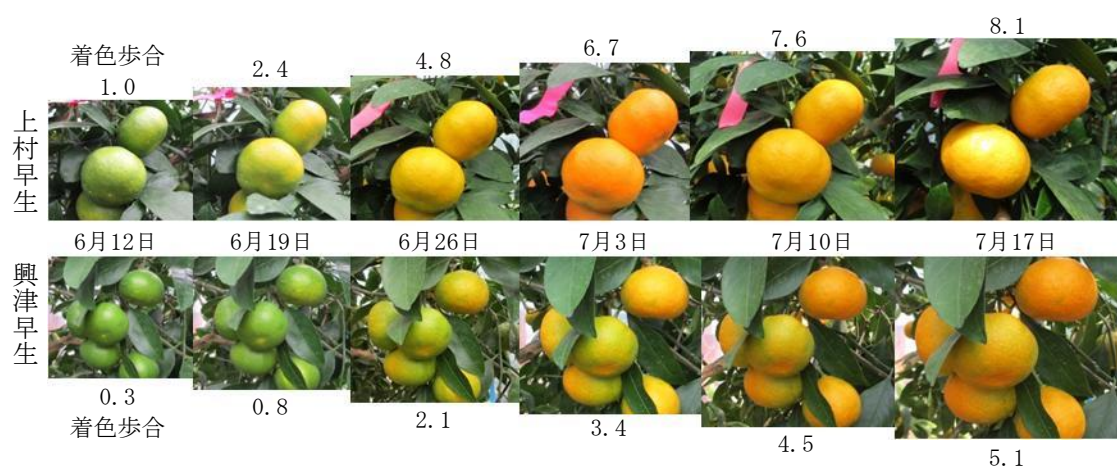


図1 施設栽培した「上村早生」の着色の変化(2012)

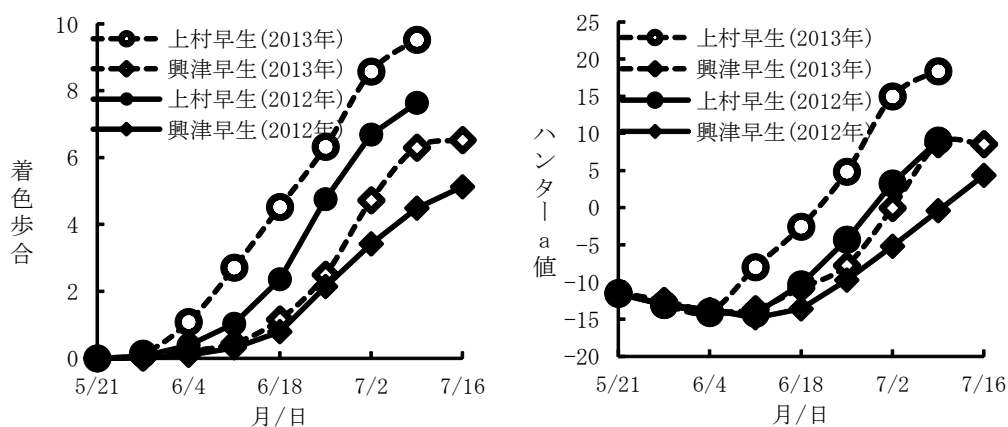


図2 施設栽培した「上村早生」の着色歩合および果皮色（ハンターa値）の経時変化（2012、2013）

注1) ハンターa値：緑→赤方向の色彩。数値が大きいほど赤が強い。

注2) 数値は2012年各品種5果×16樹、2013年各品種10果×4樹の平均。

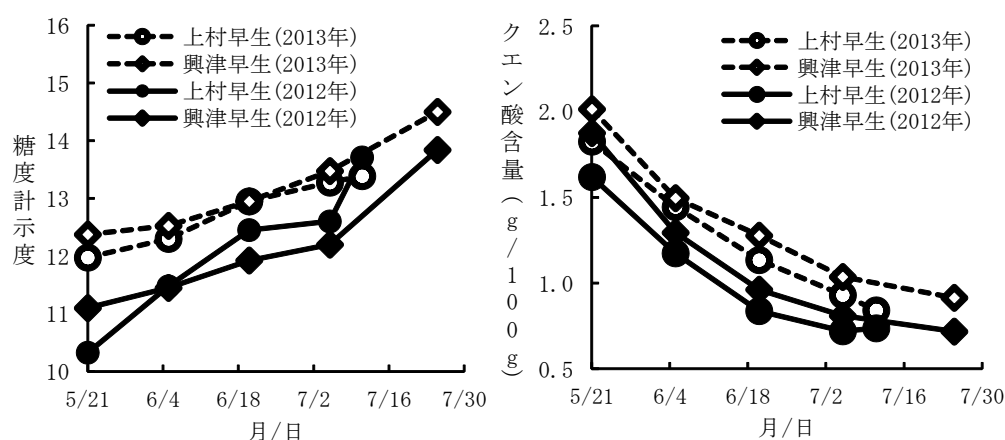


図3 施設栽培した「上村早生」の糖度計示度およびクエン酸含量（2012、2013）

注) 数値は2012年各品種5果×8樹、収穫時20果×16樹の平均。

2013年各品種5果×4樹、収穫時20果×4樹の平均。

表1 施設栽培した「上村早生」の収穫時の果実品質(2012)

品種名	着色歩合	果実重 (g)	果 径		果形 指数	じょう のう数
			横 (cm)	縦 (cm)		
上村早生	9.3	81.4	6.0	4.2	142	10.5
興津早生	7.4	91.6	6.2	4.5	138	11.4

品種名	果皮歩合 (%)	果肉歩合 (%)	果汁歩合 (%)	可溶性 固形物 (g/100g)	糖度計 示度	クエン酸 含量 (g/100g)	浮皮 発生率 (%)
上村早生	18.8	80.2	89.5	13.5	13.7	0.74	0.0
興津早生	19.1	79.7	92.2	13.6	13.8	0.72	0.0

注) 上村早生は7月10日収穫、7月12日調査。数値は20果×16樹の平均。

興津早生は7月24日収穫、7月26日調査。数値は20果×16樹の平均。

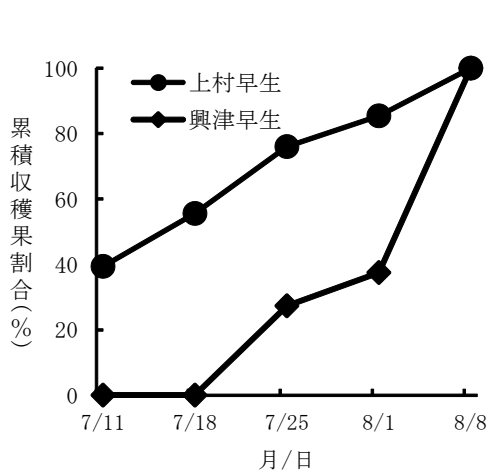


図4 施設栽培した「上村早生」の累積収穫果割合 (2012)

注1) 着色歩合で9分以上の果実を収穫し、次作への影響を考慮して8月8日には着色歩合に関係なく全果実を収穫した。

注2) 数値は各品種16樹の平均。

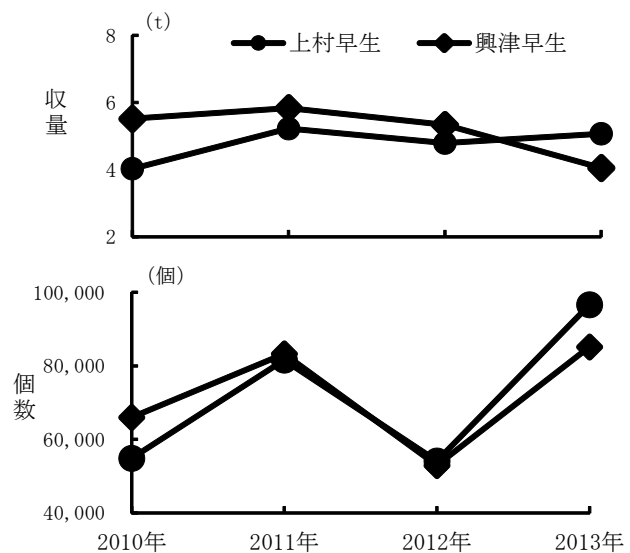


図5 施設栽培した「上村早生」の10aあたりの収量の推移 (2010～2013)

注) 10aあたり樹数は2012年までは250本、2013年は125本。

[その他]

研究課題名：新規課題化対応予備試験（「上村早生」の施設における特性に関する研究）

研究期間：平成19～25年度、 予算区分：県単

研究担当：果樹試験場・栽培育種担当

分類：普及